



夢に向かい、
勇気を持って挑み続ける。
そして社会から信頼される
会社として発展する。
それがTDKの目指す姿です。

TDK株式会社
代表取締役社長

上 釜 健 夫

東京工業大学による、世界初の磁性材料「フェライト」の発明から今年で80年。TDKがその工業化に成功してからは、ちょうど75年を迎えます。昨年秋には、「フェライトの発明とその工業化」が、電気・電子分野の歴史的業績をたたえる「IEEEマイルストーン[※]」に認定されました。発明から80年経つ現在でも、さまざまな新製品、新技術を生み出していることが評価されたもので、非常に嬉しく思っております。

私たちTDKは常に「世の中にまだ存在しない何かを、原材料の段階から創り出す」というTDKグループの社是にもある創造の精神で、さまざまな社会的課題の解決に挑んできました。

たとえば今、地球温暖化抑制に資するものとして力を入れているのが、「スマートグリッド」(次世代送電網)への取り組みです。ITなどの技術を活用して、電力の供給・需要の流れを調整・効率化するスマートグリッドの仕組みは、風力や太陽光など自然エネルギーの導入拡大の面からも大きな注目を集めています。そしてその中では、コンバータやコンデンサといった製品をはじめ、TDKの技術の強みを随所で活かすことができるのです。

また、光と電子の融合によって、今までにない超高速伝送を可能にする「ライトピーク」技術の実現・商品化にも参加・取り組んでいます。これは、今後技術の向上が進めば、電気自動車などの軽量化やデータセンターでの省エネにもつながることになる、大きな可能性を秘めた試みです。

こうした例もあるように、世界的な不況や環境問題の深刻化など厳しい状況が続く昨今は、むしろイノベーションが飛躍的に進む時期だともいえそうです。さまざまな制約の存在が、経

済活動の原点ともいえるモノづくりを見直そうとする動きを逆に加速させているのかもしれませんが。

近年、日本のモノづくりの現場においては、目先の利益だけを志向する傾向が強くなりがちでした。しかし、そうした短期的視点からだけの開発は、どうしても「浅く」なってしまいます。ほかとの差別化を図れる「深さ」を備えた製品や技術を生み出すには、やはりかつてのような、長期的なスパンを備えた研究開発が必要なのだと思います。

TDKはそうした視点に立って、今ある技術を否定する「否定技術」の開発にも、より一層力を入れていきたいと考えています。たとえば、モータなどに不可欠な磁石を、希少なレアメタルを用いずに生み出す技術なども一つのアイデアでしょう。どんな素材から、どんなデバイスをつくり出すのか。その原点に立ち返って、TDKらしいモノづくりに挑んでいきたいと思っております。

そのためにも、何事もそつなくこなす人材だけではなく、ユニークな発想や個性を持った人材を積極的に発掘していきます。それに向けて、結果だけではなくプロセスも評価できる、新しい人事制度の導入を検討しています。それを通じて、たとえ失敗してもビジョンを持ってチャレンジする人がきちんと評価される、そんな会社を目指したいと考えているのです。

本レポートには、そうしたTDKの「チャレンジ」の一端を記しました。お読みいただき、忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸いです。

※IEEEマイルストーン：アメリカに本部のある世界最大の電気・電子技術者による非営利団体組織(学会)であるIEEE(アイ・トリプル・イー)が、電気・電子技術およびその関連分野において、開発から25年以上経過し、社会や産業の発展に多大に貢献した重要な歴史的偉業をたたえるために1983年に制定。これまでに、80件以上が認定されています。日本では、東海道新幹線、電卓、VHSビデオなどが認定されており、今回は10件目となります。